宇都宮市上田町石蔵調査報告会を8月に実施
大谷石蔵集落の今と未来を共に考える

宇都宮大学安森亮雄研究室
修士1年　小林基澄

NPO法人大谷石研究会は8月9日、昨年度行った上田町における大谷石建物調査の報告会を、同町の公民館で開きました。報告会には同会会員7名、宇都宮大学の教員・学生5名、地域住民12名の計24名が参加しました。

報告会では初めに、調査の結果や分析をスライドで発表し、後半では住民と学生、会員を交えてワークショップを行いました。

スライド発表では、まず上田町は街道の両側に石塀と水路が続く町並みが特徴なこと、38敷地の216棟の建物の内、約4割の90棟が大谷石建物であることなどを説明しました。特に、1階部分に納屋、2階に離れを持つものや、1つの建物が界壁によって蔵と納屋に分かれたものといった、用途の複合した大規模な建物や、灰小屋のような小規模な建物など、多様な大谷石建物が見られたことが特徴です。住民の方々は説明を熱心に聞いてくださり、大谷石建物の現状を共有することができました。

水路と石塀のある上田町の町並み

石垣と一体化した複合型大谷石建物

後半のワークショップでは、住民と学生、会員混合の3グループに分かれ、町の様々な歴史、魅力、今後の課題などを話し合いました。議論は内容ごとに色分けし、ポストイットに記録し地図に貼り付け、それぞれのグループの学生が発表しました。そして上田町では水路や水路周辺の花壇などの環境整備に力をいれている反面、今は石蔵を利用していない敷地が多く、石蔵を今後どのように扱っていけばいいかわからない、などといった意見も出てきて、上田の魅力と課題の両方を発見しました。ワークショップでは、上田の魅力を知ってもらうために、年に1回程度でもよいので「そのよさを披露する日」をつくる、といったアイデアも挙げられ、まだ認知度が高いとは言えない上田に注目が集まることを期待する声もあがりました。

大谷石に対する宇都宮の地域資源としての価値が増していく中で、大谷石建物の保存と活用は今後の上田町の景観を考えるといった面でも非常に重要です。近年では老朽化や大谷石建物が取り壊されることも多くなっていますが、上田町はコミュニティがしっかりとしており、住民の関心も高いことから、大谷石建物の未来にとって頼もしい存在といえます。

今回の調査報告会ではそういったことを知ることができて、研究会や大学と、上田町の地域住民の意見を共有できた貴重な場となりました。

ワークショップで作成したマップ

ワークショップ

スライド発表

会員通信

桜井邸グッドデザイン賞
廃材になった大谷石の再利用

NPO法人 大谷石研究会
会員　佐藤　英子

「記憶する建築」

先ごろの東日本大震災は、各地で建造物に多数の大きな災害を及ぼしました。

宇都宮市逆面の元農家でも、祖先からの遺産 大谷石の穀物蔵がありました。ところが、この震災で残念なことに崩れ落ちてしまったのです。思い出がいっぱい詰まった蔵を、何とか再生できないものかと施主様の想いを受け、違う形でゲストハウスとして再生することになりました。

施主様は忙しい仕事の毎日を過ごして居られます。仕事を離れた夜などにはほっと一息入れ、趣味を楽しんだり明日の活力を養う空間も必要でしょう。今回は、地震に強い耐震木造工法を構造体に、スライスした大谷石を張石工法で壁に張りつけた。小さいながら台所やお風呂まで、生活に不自由のない暖かなそして涼しい、誠に居心地のいい家です。

一見素朴なつくり。一歩室内に足を踏み入れると、大谷石の蔵の扉がドーンと目に飛び込んでくる。「ええっ」と声が。室内を見回すと落ち着いた瀟洒な和室、と大谷石をふんだんに使用した、ノスタルジック…大正ロマンの洋室。

グッドデザイン賞になったポイントは、『大谷石を身近に感じられる』とのことでした。世の中はますます多様化します。人々の暮らしや好みに合わせられる企業として成長していきたいと思っています。

設計・施工　栃木ミサワホーム(株)
栃木県宇都宮市一条一丁目七ノ二四

ミニバスツアーの報告

NPO法人 大谷石研究会
理事　佐藤　公紀

「宇都宮餃子祭り」の日である10月31日に、餃子祭りで来訪した方々に大谷石の魅力も味わっていただこうと、大谷石建築を巡るミニバスツアーを企画し実施いたしました。当日はあいにくの小雨で肌寒かったのですが、約50名の方々が参加して下さいました。コースは大谷方面ー［大谷資料館、大谷寺、高橋祐知商店採石場］、市内方面ー［松が峰教会、聖ヨハネ教会、旧篠原邸］の二つのコースを午前と午後に行いました。餃子を召し上がるのが主なので、コースはそれぞれ約2時間半の短い内容でしたが、参加者の皆さんは採石場を見るのが初めてとか教会の内部を見るのが初めてと、大谷石空間を興味深く見学していました。今回のツアーは、「宇都宮の餃子+大谷石も味わう」をテーマに「とちぎコープ生活協同組合」様よりのNPO法人助成金を基に行われました。

聖ヨハネ協会を見学。
初めて訪れる方が多く感動されていました。

高橋祐知商店の大谷石採石場を見学。

実際に掘り出されている採石場に興味津々でした。

見学会場の解説をしながらバスで移動移動しました。

大谷石　東西南北

老若男女が憩う札幌・石山緑地

（NPO法人 大谷石研究会広報担当　平沼　隆志）

札幌市郊外に「石山緑地」という広い市民公園がある。かつての石材産地が、老若男女が憩い、文化・芸術イベントを楽しむ場になっている。地域の歴史を残しつつ、市民の多様なニーズに対応する新たな「石の里」だ。

住所表示でいえば、札幌市南区石山地区。明治時代に発見された「札幌軟石」の産地だ。札幌軟石は、柔らかくて、軽く、保湿性がある凝灰岩。大谷石と兄弟分だ。小樽の倉庫群など明治、大正時代の建造物に多く利用された。

石山緑地は、札幌市がその採掘場・石切り場跡を再利用して1996年に開いた。露出した岩肌を生かして独自の景観を演出するほか、地元芸術家による彫刻も配置。野外ステージはイベント会場にも利用されており、私が今年夏に訪ねたときは、恒例の市民ロックフェスティバルが開催中。石の里に響く大音量の音楽が心地よかった。

宇都宮市芦沼地区の石蔵調査を実施

昨年の上田地区に引き続き、大谷石研究会と宇都宮大学安森研究室の石蔵調査を実施しています。

NPO法人大谷石研究会のホームページ
http://www.ooyaishi.org/

コンテンツ盛りだくさん

大谷石研究会とは・大谷石の歴史と魅力・全国の大谷石の建造物・最近の使用例・石蔵や大谷石の活用例・大谷石の工法と保存・活動報告ブログ・会報誌（バックナンバーがダウンロードできます）